

# 確認申請図書作成例(2階建て木造戸建て住宅)

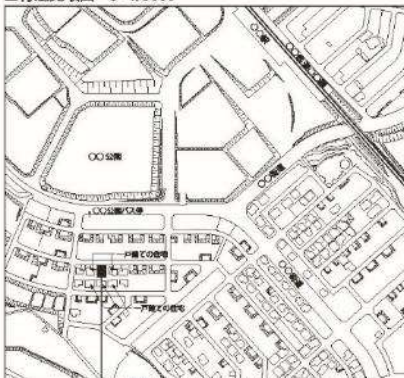
---

# 確認申請図書の作成例

## 付近見取図、仕上表、仕様表

令和7年3月26日時点

### ■付近見取図 S=1/5000



### ■計画概要

工事名称	〇〇新築工事	〇〇種別	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
建築主	住所 東京都〇〇市〇〇区〇〇-〇-〇	種別	住宅 大規模
敷地概要	地名地番 東京都〇〇市〇〇区〇〇-A-1 住所表示 東京都〇〇市〇〇区〇〇-〇-〇 敷地面積 185.00㎡ 都市計画区域 市街化区域 用途地域 第1種住居地域 防火地域 指定なし(第2種防火区画) 指定容積率 50% 指定建ぺい率 100% 高さ制限 10m 高度地区 ー 日照制限 4時間、2.5時間、1.5m 道路 計画道路幅員 6.00m、線道路幅員 11.00m 土砂災害特別警戒区域 ー	用途	一戸建て住宅
建築概要	建築用途 新築工事 工事の種類 建築 構造 木造 基礎 基礎 基礎 BM+0.335m 最高高さ 8.114m 軒高 8.404m 階高 71.21㎡ 床面積 1階床面積 68.22㎡ 2階床面積 52.99㎡ 延床面積 122.21㎡		

### ■仕様表

項目	仕様	備考
基礎	基礎工法 基礎工法 基礎工法 基礎工法	
躯体	躯体工法 躯体工法 躯体工法 躯体工法	
屋根	屋根工法 屋根工法 屋根工法 屋根工法	
外壁	外壁工法 外壁工法 外壁工法 外壁工法	
内装	内装工法 内装工法 内装工法 内装工法	
設備	設備工法 設備工法 設備工法 設備工法	
その他	その他工法 その他工法 その他工法 その他工法	

### ■内部仕上表

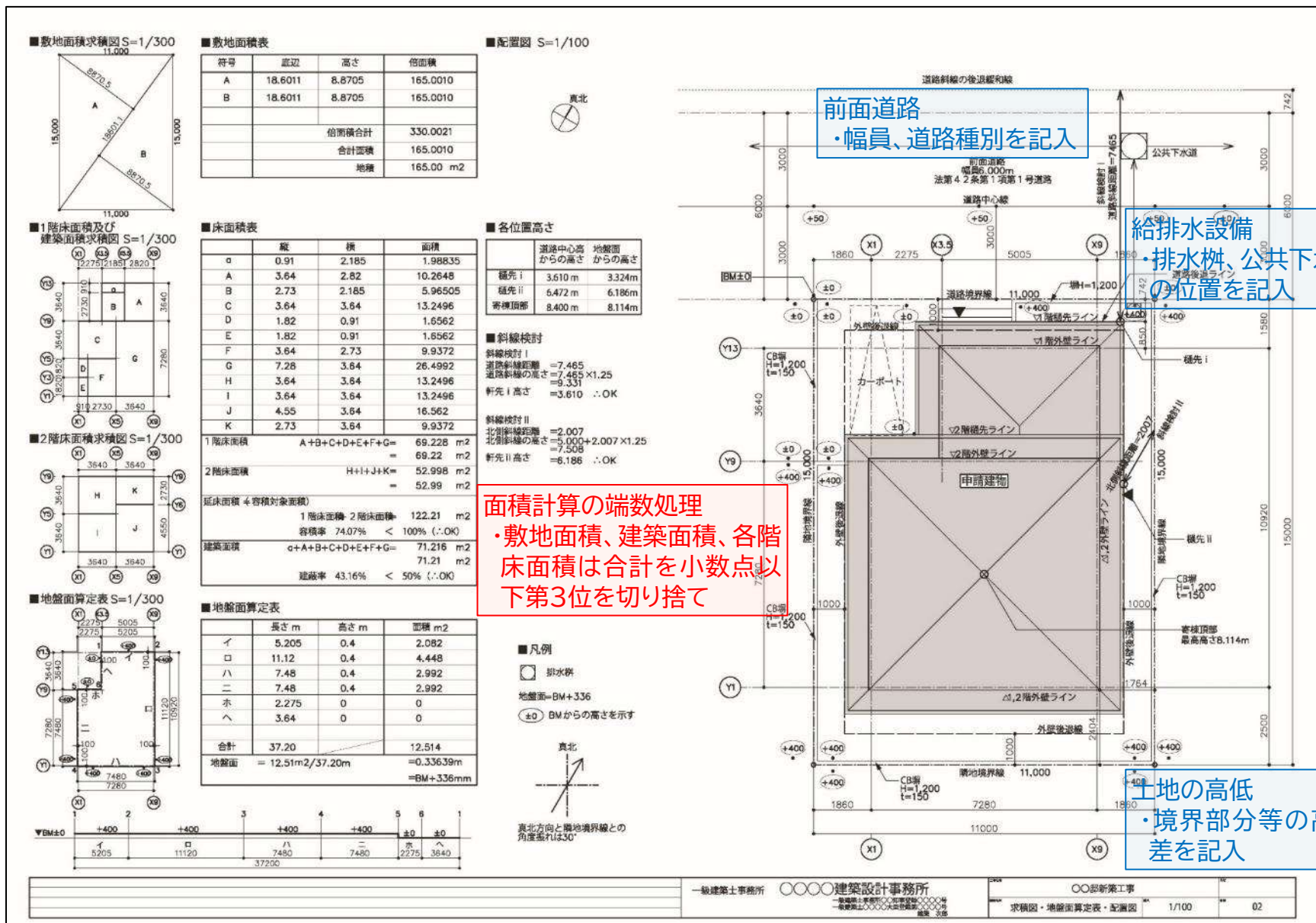
階	室名	床		巾木		壁		天井		備考
		仕上	記号	仕上	H	仕上	記号	仕上	記号	
1階	玄関	フロアリング	F1	木製巾木	60	ビニルクロス貼	W1	ビニルクロス貼	C1	手すり下地
	ホール・廊下	フロアリング	F1	木製巾木	60	ビニルクロス貼	W1	ビニルクロス貼	C1	
	浴室	タイル	T1	タイル	60	タイル	T1	タイル	T1	
	洗面	タイル	T1	タイル	60	タイル	T1	タイル	T1	
	トイレ	タイル	T1	タイル	60	タイル	T1	タイル	T1	
	キッチン	タイル	T1	タイル	60	タイル	T1	タイル	T1	
	リビング	フロアリング	F1	木製巾木	60	ビニルクロス貼	W1	ビニルクロス貼	C1	
	ダイニング	フロアリング	F1	木製巾木	60	ビニルクロス貼	W1	ビニルクロス貼	C1	
	和室	畳	T1	畳	60	畳	T1	畳	T1	
	納戸	フロアリング	F1	木製巾木	60	ビニルクロス貼	W1	ビニルクロス貼	C1	
2階	廊下	フロアリング	F1	木製巾木	60	ビニルクロス貼	W1	ビニルクロス貼	C1	
	居室	フロアリング	F1	木製巾木	60	ビニルクロス貼	W1	ビニルクロス貼	C1	
	浴室	タイル	T1	タイル	60	タイル	T1	タイル	T1	
	洗面	タイル	T1	タイル	60	タイル	T1	タイル	T1	
	トイレ	タイル	T1	タイル	60	タイル	T1	タイル	T1	
	キッチン	タイル	T1	タイル	60	タイル	T1	タイル	T1	
	リビング	フロアリング	F1	木製巾木	60	ビニルクロス貼	W1	ビニルクロス貼	C1	
	ダイニング	フロアリング	F1	木製巾木	60	ビニルクロス貼	W1	ビニルクロス貼	C1	
	和室	畳	T1	畳	60	畳	T1	畳	T1	
	納戸	フロアリング	F1	木製巾木	60	ビニルクロス貼	W1	ビニルクロス貼	C1	

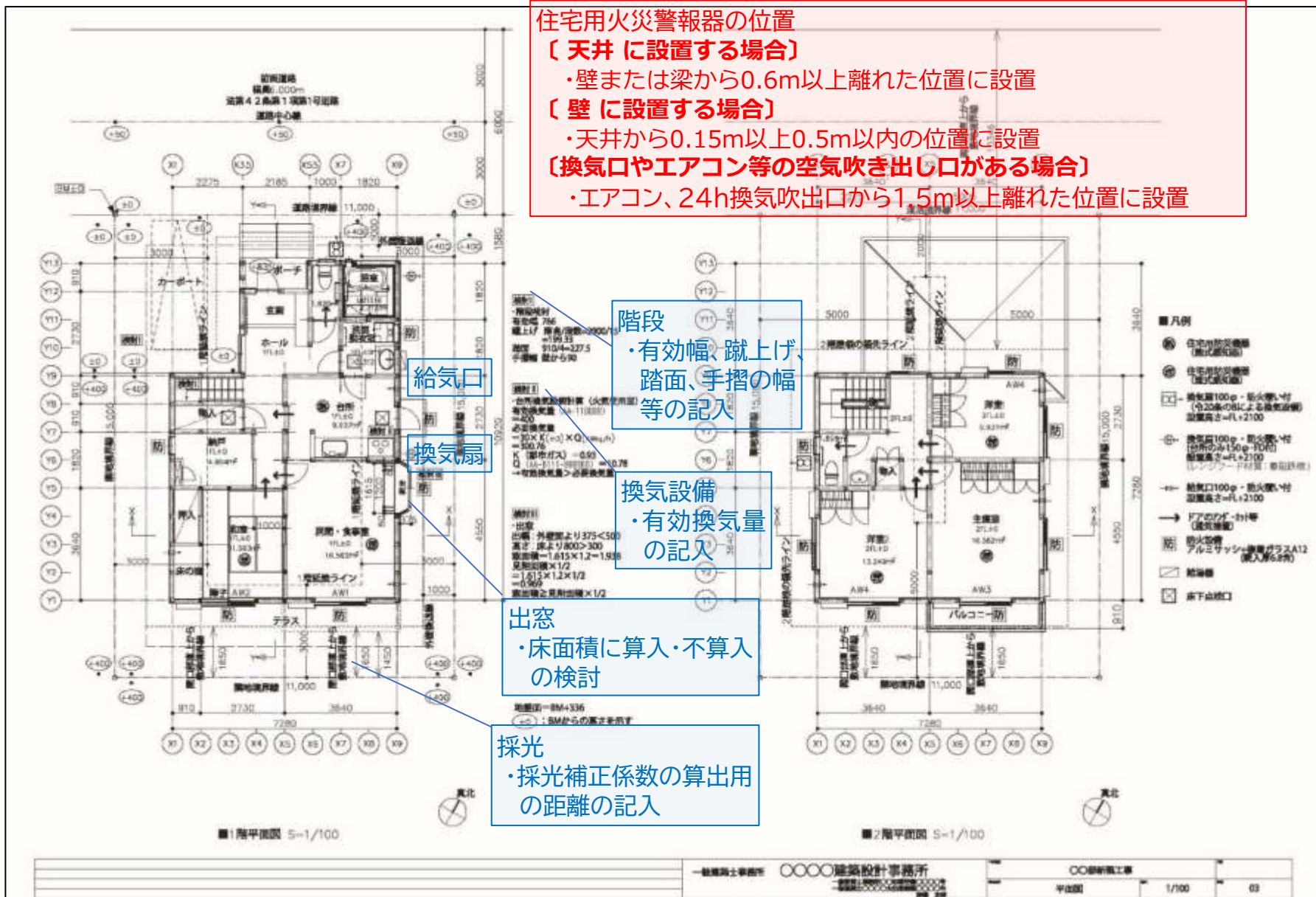
### ■外部仕上表

部位	仕上	備考
屋根	瓦葺き	
外壁	タイル	
内装	フロアリング	
床	タイル	
天井	石膏ボード	

### 仕様表(福井県版の記入例参照)

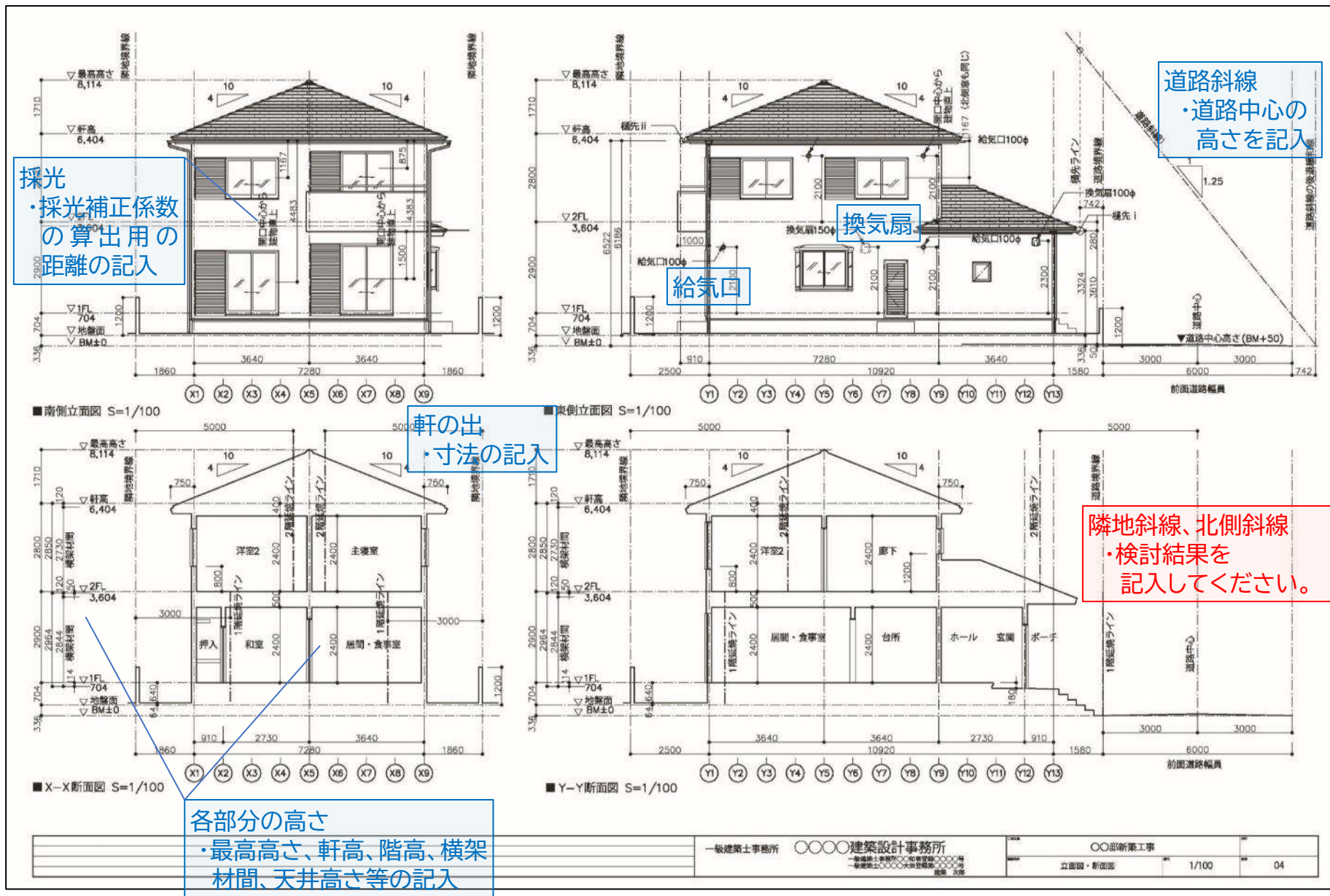
仕様表を作成すると  
→基礎伏図、小屋伏図、各階床伏図、軸組図の添付省略



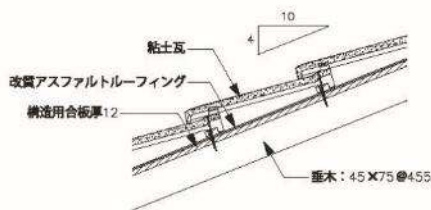


# 確認申請図書の作成例

## 立面図、断面図



■耐火構造等の構造詳細図(屋根) S=1/10

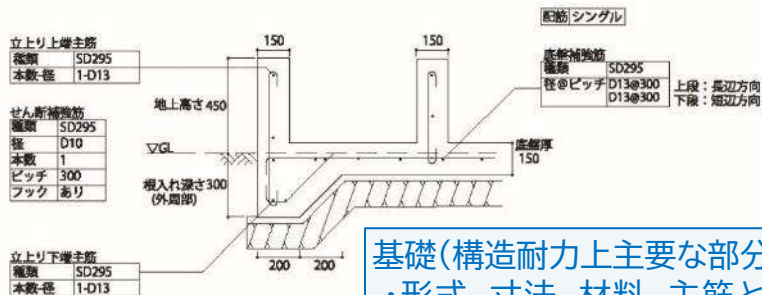


### 屋根(構造耐力上主要な部分)

- ・心き材、断面構造、寸法等の記入
- ・告示、大臣認定等の構造方法の記入  
(法22条区域内:不燃材料等)

■基礎の仕様 S=1/20

基礎形式 べた基礎 (単位:mm)

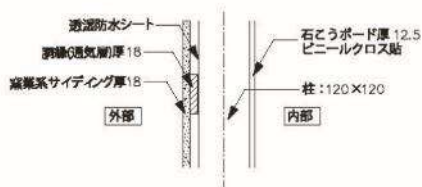


### 基礎(構造耐力上主要な部分)

- ・形式、寸法、材料、主筋と補強筋の種類・径・位置・緊結方法(フック、ユニット鉄筋、構造計算により安全性を確認した)等の記入

(参考)

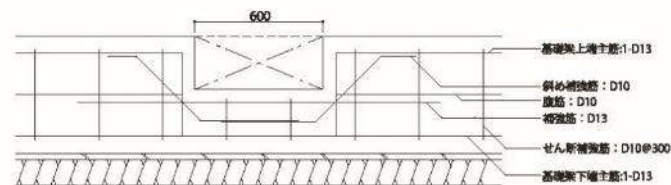
■耐火構造等の構造詳細図(外壁) S=1/10



### 外壁(構造耐力上主要な部分)

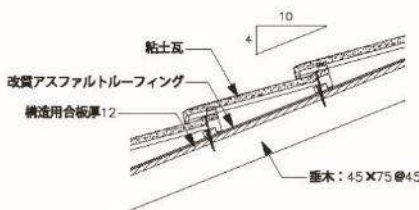
- ・材料、断面構造、寸法等の記入
- ・告示、大臣認定等の構造方法の記入  
(法22条区域内の延焼のおそれのある部分:準防火構造等)

■人通り廻りの開口部補強 S=1/20



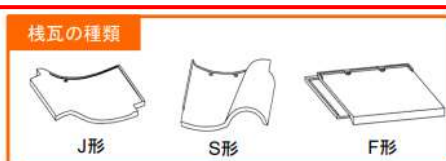
一級建築士事務所	〇〇〇〇建築設計事務所	〇〇設計事務所	
	構造設計(1)	1/10, 1/20	05

■耐火構造等の構造詳細図(屋根) S=1/10



### 【参考】瓦の緊結方法

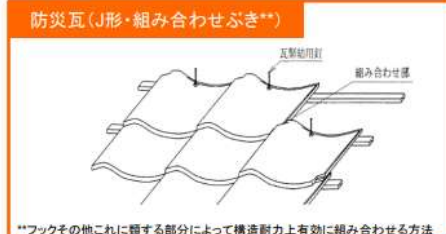
緊結箇所	<b>全ての瓦</b>	
緊結方法(※2)	軒、けらば	<b>3本のくぎ等(くぎ*又はねじ)で緊結</b>
	むね	<b>ねじで緊結</b>
	平部	<b>くぎ等で緊結(詳細は下表参照)</b>
耐久性	屋根ふき材・緊結金物にさび止め・防腐措置をすること	



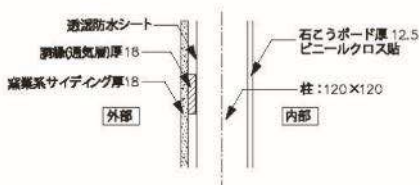
屋根(構造耐力上主要な部分)  
 ・ふき材、断面構造、寸法等の記入  
 ・告示、大臣認定等の構造方法の記入  
 (法22条区域内:不燃材料等)

<平部の瓦の緊結方法> \*容易に抜け出ないように加工したものに限り。

瓦の種類	基準風速 $V_0$ ※3	30m/s	32~36m/s	38~46m/s
F形			<b>くぎ等2本で緊結</b>	使用不可
J形、S形		<b>くぎ等1本で緊結</b>		
防災瓦 (J形、S形、F形)		<b>くぎ等1本で緊結</b>		



■耐火構造等の構造詳細図(外壁) S=1/10



外壁(構造耐力上主要な部分)  
 ・材料、断面構造、寸法等の記入  
 ・告示、大臣認定等の構造方法の記入  
 (法22条区域内の延焼のおそれのある部分:準防火構造等)

一級建築士事務所	〇〇〇〇建築設計事務所	〇〇設計施工	
	構造詳細図(1)	1/10, 1/20	05

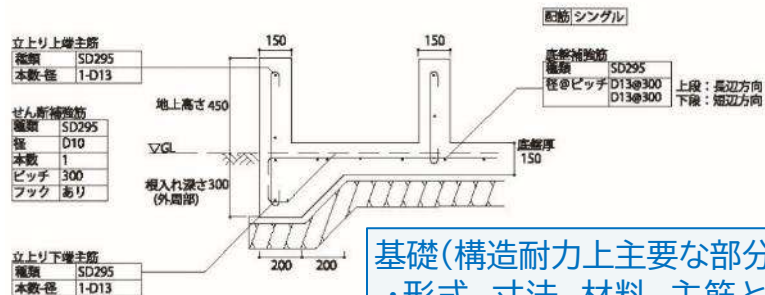
### 基礎(主筋と補強筋)の緊結方法

15	基礎における主筋と補強筋の緊結とはどのような状態を想定しているのか。	基礎が一体的なコンクリートとして荷重を支えられるようにするために、主筋と補強筋が相互に応力を伝達できるような状態を想定しています。
16	基礎における主筋と補強筋の緊結の具体的な方法にはどのようなものがあるのか。	具体的には、フックや住宅用ユニット鉄筋などは十分な耐力が期待できるものとして挙げられますが、主筋と補強筋とが相互に応力を伝達できるものであれば、それ以外の方法を排除するものではありません。
17	建築確認等において、基礎における主筋と補強筋の緊結の具体的な方法について審査や検査を行う必要はないのか。	主筋と補強筋の緊結方法については、個別具体の建築計画に応じて、設計者が適切に判断することとしています。このため、審査においては、緊結していることが確認できれば、具体的な緊結方法を審査する必要はありません。また、検査においては、構造詳細図との整合を確認することとします。

出典:脱炭素社会の実現に資するための建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律に係る質疑応答集  
(令和7年3月18日時点)

■基礎の仕様 S=1/20

基礎形式  べた基礎 (単位:mm)

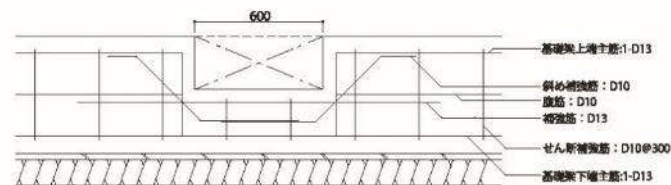


### 基礎(構造耐力上主要な部分)

・形式、寸法、材料、主筋と補強筋の種類・径・位置・緊結方法(フック、ユニット鉄筋、構造計算により安全性を確認した)等の記入

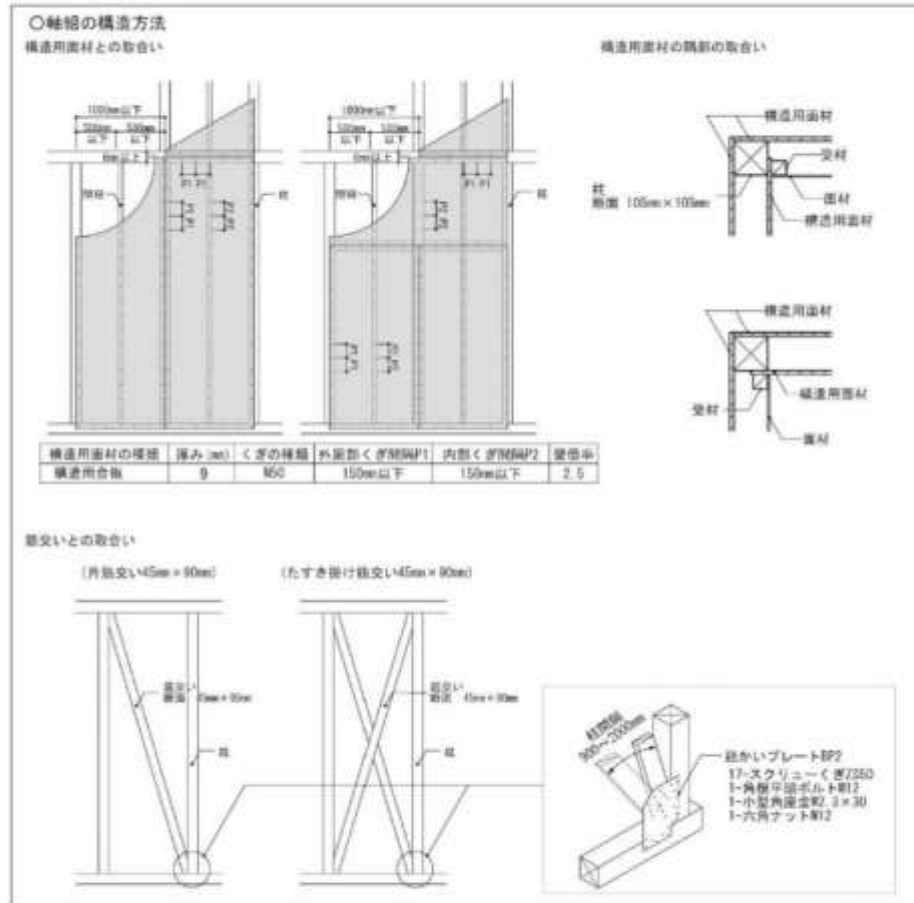
(参考)

■人通り廻りの開口部補強 S=1/20



一級建築士事務所	〇〇〇〇建築設計事務所	〇〇設計事務所	
	構造設計(1)	1/10, 1/20	05

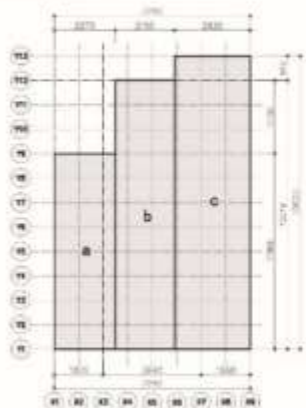




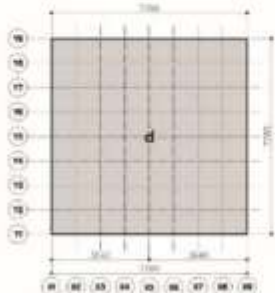
■継手及び仕口の構造方法

	(イ) 短径平置し	(ロ) かすがい打ち	(ハ) 長径平置し込み挿し	(ニ) かど金物OP-L	(ヒ) かど金物OP-T	(ヘ) 山形プレートVP2
柱						
上下階						
柱脚						

■1階床面積図



■2階床面積図



面積算定の根拠  
・面積算定の寸法の記入

■1階床面積計算表

区分	幅 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	7.280	2.275	16.5620000	
b	10.010	2.185	21.8718500	
c	10.920	2.820	30.7844000	

■2階床面積計算表

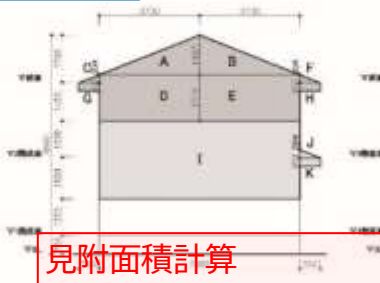
区分	幅 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
d	7.280	7.280	52.9984000	

■壁量判定用床面積

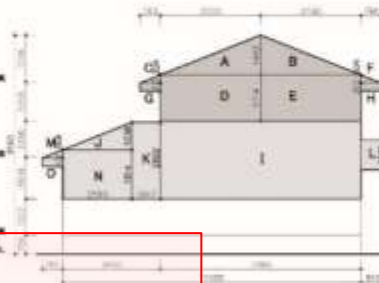
階	部位	計算式	壁量判定用床面積 (㎡)
2階	床	d	53.00
	合計	(2階床)	53.00
1階	床	a+b+c	69.23
	合計	(1階床)	69.23

面積計算の端数処理  
・小数点以下第3位を切り上げ(安全側)

■X軸方向見付面積図



■Y軸方向見付面積図



見付面積計算  
・壁の厚さ、屋根の厚さを考慮  
(床面積計算の壁芯と混同に注意)

区分	計算式	面積 (㎡)
A	3.730 × 1.492 × 2	2.7825800
B	3.730 × 1.492 × 2	2.7825800
C	0.780 × 0.304 × 2	0.1155200
D	3.730 × 1.714	6.3932200
E	3.730 × 1.714	6.3932200
F	0.780 × 0.304 × 2	0.1155200
G	0.780 × 0.300	0.2280000
H	0.780 × 0.300	0.2280000
I	7.480 × 2.900	21.6340000
J	0.780 × 0.304 × 2	0.1155200
K	0.780 × 0.300	0.2280000

区分	計算式	面積 (㎡)
A	3.730 × 1.492 × 2	2.7825800
B	3.730 × 1.492 × 2	2.7825800
C	0.780 × 0.304 × 2	0.1155200
D	3.730 × 1.714	6.3932200
E	3.730 × 1.714	6.3932200
F	0.780 × 0.304 × 2	0.1155200
G	0.780 × 0.300	0.2280000
H	0.780 × 0.300	0.2280000
I	7.480 × 2.900	21.6340000
J	2.593 × 1.038 × 2	1.3457670
K	1.547 × 2.892	2.8690440
L	0.919 × 1.100	1.0010000
M	0.780 × 0.304 × 2	0.1155200
N	2.593 × 1.814	4.7037020
O	0.780 × 0.300	0.2280000

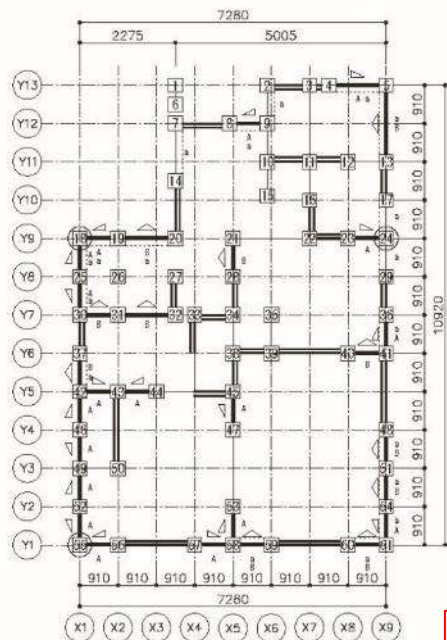
■X軸方向見付面積計算結果→Y方向必要壁量の根拠

階	計算式	見付面積 (㎡)
2階	2階A+B+C+D+E+F+G+H	19.04
1階	1階A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K	41.02

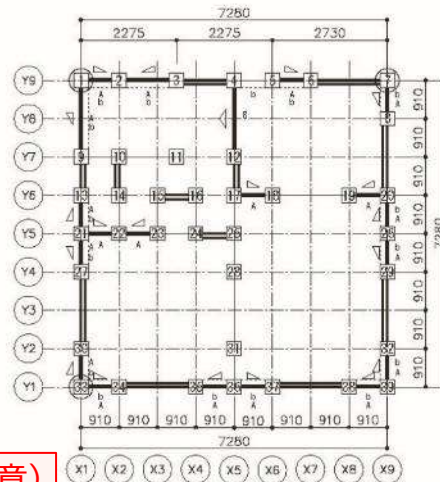
■Y軸方向見付面積計算結果→X方向必要壁量の根拠

階	計算式	見付面積 (㎡)
2階	2階A+B+C+D+E+F+G+H	19.04
1階	1階A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K+L+M+N+O	81.06

■1階壁量平面図



■2階壁量平面図



耐力壁(筋交い)、準耐力壁(石膏ボード)  
・位置、種類、長さ等の記入

準耐力壁の算入(任意)  
・くぎ打ちの方法

凡例 一 一般壁 二 耐力壁 三 準耐力壁 四 筋かいダブル 五 柱 六 柱芯柱

■耐力壁・準耐力壁仕様一覧

種類	壁記号	材種名	基準倍率	係数	開口有無	開口高さ(cm)	取付高さ(cm)	下地材高さ(cm)	壁厚高さ(cm)	壁間高さ(cm)	下地材強度(MPa)	準耐力壁判定法(寸法)	有効倍率	高低差(mm)	規格	くぎ打ちの方法 種類	間隔(mm)
耐力壁	A	葛川V45・90(シングル)	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.00	-	-	-	-
	B	葛川V45・90(ダブル)	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.00	-	-	-	-
準耐力壁等	a	石膏ボード(床縁付大壁)	0.9	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	234.4	0.45	12.0	JIS A6901・2005	GNF 40又はGNIC 40	150以下
	b	石膏ボード(床縁付大壁)	0.9	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	12.0	JIS A6901・2005	GNF 40又はGNIC 40	150以下

・有効倍率=基準倍率×係数×下地材実高さ÷標準材厚(内法寸法)  
※本表に記載する以外の準耐力壁等の算入は行いません。

■壁量判定(必要壁量検出)方法

階・方向	地震力に対する必要壁量		風圧力に対する見付面積当たりの必要壁量		必要壁量の決定			存在壁量 (cm)	壁量判定 必要壁量≦存在壁量			
	床面積 (㎡)	係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)	見付面積 (㎡)	係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)	地震力 (cm)					
2階X方向	53.00	27	1,431.00	19.04	50	952.00	1,431.00	>	952.00	1,431.00	2,456.55	OK
2階Y方向			1,431.00	19.04	50	952.00	1,431.00	>	952.00	1,431.00	2,750.93	OK
1階X方向	89.23	30	2,699.97	51.05	50	2,699.97	2,699.97	>	2,699.97	2,699.97	4,381.85	OK
1階Y方向			2,699.97	41.02	50	2,051.00	2,699.97	>	2,051.00	2,699.97	4,556.83	OK

・風圧力の区分：一般地等  
・各階ごとに、X方向、Y方向のそれぞれについて、CとFを比較して、大きい方をこの建築物の必要壁量として使用します。  
・地震力の必要壁量は、「地震制震(令第46条第4項)」を含む(地震制震1.0)

1. 基本情報

項目	値
2階高さ	2.8 m以下
1階高さ	2.9 m以下
標準せん断力係数C <sub>0</sub>	0.2
太陽光発電設備等	なし
床間隔比	60/100以上 50/100未満
柱の仕様	すき、無断柱付

見付面積対しての必要壁量 (cm/㎡)

階	方向	必要壁量 (cm)
2階	X	23
	Y	46
1階	X	30
	Y	41

■存在壁量の算定

階・方向	壁記号	有効壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (耐力壁等) (cm)	存在壁量 (準耐力壁等) (cm)	存在壁量 (合計) (cm)
2階X方向	A	2.00	1,046.50	2,093.00	-	2,456.55
	B	0.47	773.50	-	363.55	2,456.55
2階Y方向	A	2.00	819.00	1,638.00	-	2,750.93
	B	0.47	819.00	-	384.93	2,750.93
1階X方向	A	2.00	773.50	1,547.00	-	4,381.85
	B	0.45	637.00	-	238.65	4,381.85
1階Y方向	A	2.00	910.00	1,820.00	-	4,556.83
	B	0.45	1,238.50	-	552.83	4,556.83

■準耐力壁等の必要壁量に対する割合の確認

階・方向	必要壁量 (cm)	存在壁量 (準耐力壁等) (cm)	B/A	判定
2階X方向	1,431.00	363.55	0.26	OK
2階Y方向	1,431.00	384.93	0.27	OK
1階X方向	2,699.97	288.65	0.11	OK
1階Y方向	2,699.97	552.83	0.21	OK

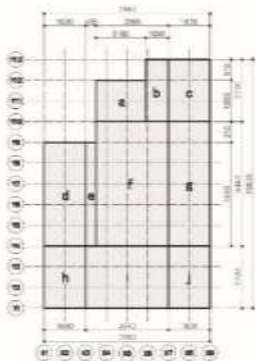
・各階・各方向の必要壁量の1/2以下の範囲内で準耐力壁等を加算する場合、準耐力壁等を考慮せずに壁配置のバランスの確認を行います。また、壁倍率1.5倍以下の準耐力壁等を考慮せずに柱頭・柱脚の接合方法の確認を行います。

準耐力壁の割合  
・四分割法、N値計算時に1/2以下の場合には準耐力壁を算入しません。

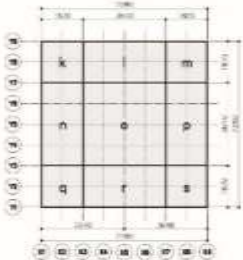
建築設計事務所 〇〇〇新築工事

壁量判定 兼 耐力壁図

図番 11



凡例 □ 床面積図面 a b c... 床面積区分名

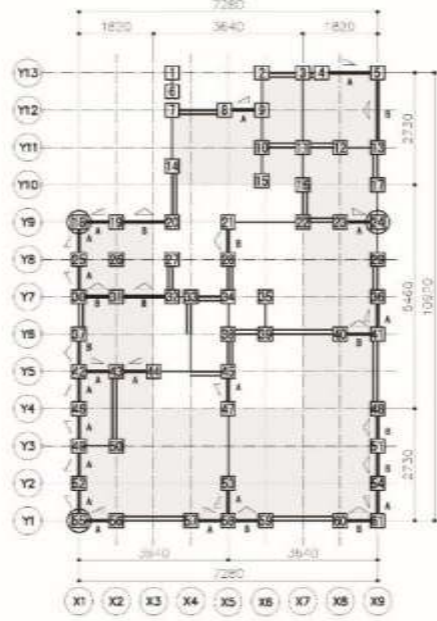


■1階四分割法面積極算図

■2階四分割法面積極算図

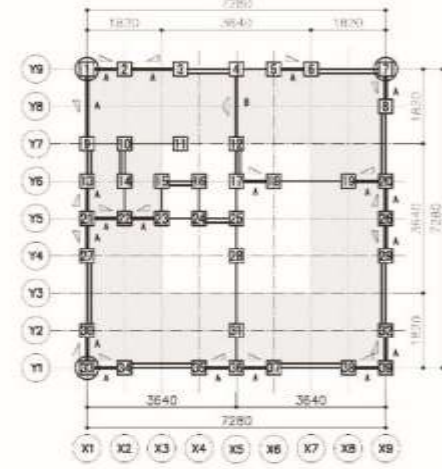
■区分別床面積計算表

[1階]				[2階]			
区分	幅(m)	縦(m)	床面積(m <sup>2</sup> )	区分	幅(m)	縦(m)	床面積(m <sup>2</sup> )
a	1.820	2.185	3.9787000	k	1.820	1.820	3.3124000
b	2.730	1.000	2.7300000	l	1.820	3.840	6.9248000
c	2.730	1.820	4.9686000	m	1.820	1.820	3.3124000
d	4.550	1.820	8.2810000	n	3.840	1.820	6.9248000
e	4.550	0.495	2.2702500	o	3.840	3.840	14.7456000
f	4.490	3.180	14.2581000	p	3.840	1.820	6.9248000
g	5.460	1.820	9.9372000	q	1.820	1.820	3.3124000
h	2.730	1.820	4.9686000	r	1.820	3.840	6.9248000
i	2.730	3.840	10.4784000	s	1.820	1.820	3.3124000
j	2.730	1.820	4.9686000				



■1階四分割法平面図

凡例 — 耐力壁 □ 耐力壁 △ 低かいダブル 〇 柱



■2階四分割法平面図

■四分割対象面積

階	方向	位置	計算式	面積(m <sup>2</sup> )
2	X	上	(m1+m2)	13.25
		下	(m3+m4)	13.25
	Y	左	(n1+m1)	13.25
		右	(n1+m3)	13.25
1	X	上	(a+b+c)	11.88
		下	(m1+m2)	18.88
	Y	左	(d+e)	13.25
		右	(m3+m4)	18.88

■1階X方向上の存在壁量(cm)

階層	Y方向	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
上	耐力壁	Y13	273.00									273.00
上	耐力壁	Y12	182.00									182.00
存在壁量 655.00												

■2階X方向上の存在壁量(cm)

階層	Y方向	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
上	耐力壁	Y9	182.00	273.00	182.00							637.00
存在壁量 637.00												

■1階X方向下の存在壁量(cm)

階層	Y方向	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
下	耐力壁	Y1	182.00	182.00	364.00	364.00						1,092.00
存在壁量 1,092.00												

■2階X方向下の存在壁量(cm)

階層	Y方向	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
下	耐力壁	Y1	182.00	182.00	182.00	182.00						728.00
存在壁量 728.00												

■四分割法判定

階	方向	区分別		区分別	区分別	区分別	区分別	区分別	区分別	区分別	区分別	区分別	区分別
		壁率	壁率										
2	X	上	13.25	27	1.0	357.75	617.00	1.78	OK	(0.5)	(OK)		
		下	13.25	27	1.0	357.75	726.00	2.09	OK				
	Y	左	13.25	27	1.0	357.75	610.00	1.54	OK	(0.78)	(OK)		
		右	13.25	27	1.0	357.75	726.00	2.09	OK				
1	X	上	11.88	20(4)	1.0	273.60	455.00	1.95	OK	(0.72)	(OK)		
		下	19.88	39	1.0	275.32	1,003.00	1.41	OK				
	Y	左	13.25	39	1.0	514.75	1,456.00	2.82	OK	(0.62)	(OK)		
		右	19.88	39	1.0	275.32	1,003.00	2.55	OK				

■1階Y方向上の存在壁量(cm)

階層	X方向	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
左	耐力壁	X1	182.00	182.00	364.00	182.00	182.00	182.00				1,456.00
存在壁量 1,456.00												

■2階Y方向上の存在壁量(cm)

階層	X方向	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
左	耐力壁	X1	364.00	182.00	182.00	182.00						910.00
存在壁量 910.00												

■1階Y方向右の存在壁量(cm)

階層	X方向	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
右	耐力壁	X8	728.00	182.00	364.00	364.00	182.00					1,820.00
存在壁量 1,820.00												

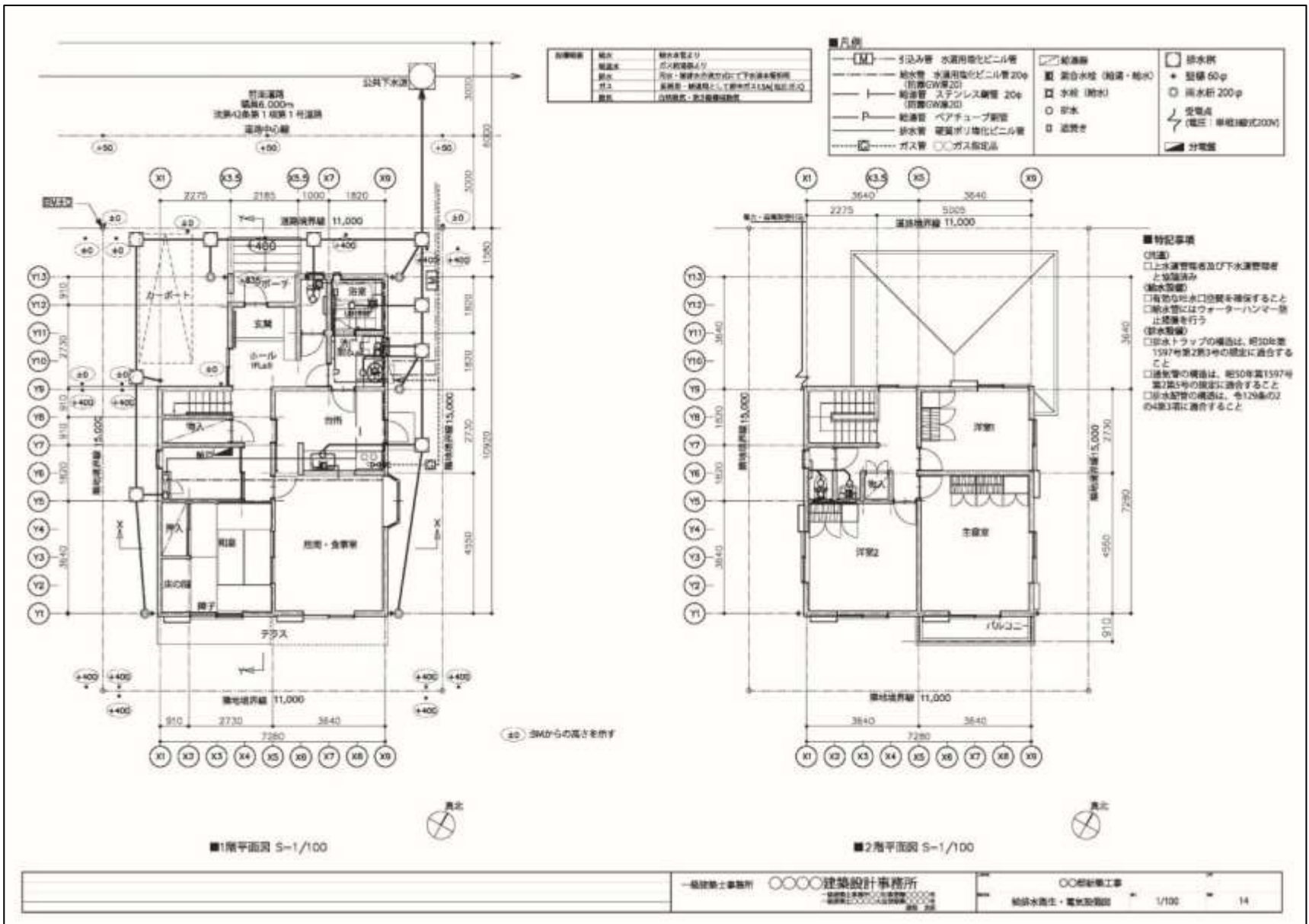
■2階Y方向右の存在壁量(cm)

階層	X方向	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
右	耐力壁	X9	182.00	182.00	182.00	182.00						728.00
存在壁量 728.00												

判定 壁量充足率が1.0超の場合、壁比率0.5以上の確認は不要です。

準耐力壁 準耐力壁の割合が1/2以下の場合、準耐力壁を算入しません。





・ホルムアルデヒドの発散による衛生上の支障がないようにするための措置

種類	換気系統図 (第3種換気)
換気回数	0.6回/h (下巻による)
居室入口の換気設備	ドアのアンダーカット1cm、および、引戸、換気グリダリ
換気設備の設置場所	換気 (1階、2階)

居室毎の機械換気設備 ※換気設備ではない制戸、扉入は対象外

室名	床面積 ㎡	平均天井高 h	容積 m³	必要有効 換気量 (A) m³/h	換気設備 種別	換気量による 有効換気量 (A) m³/h	計換気量による 有効換気量 (B) m³/h	換気回数 n
1F 玄関	2.485	2.580	6.412	254.960×0.5 127.480	第1種換気設備 給気口及び 排気設備	/	80	/
1F ホール	5.350	2.400	12.720					
1F 廊下	4.304	2.400	10.330					
1F 階段	2.070	2.175	4.503					
1F 便所	1.820	2.400	4.368					
1F 台所	9.937	2.400	23.949					
1F 浴室	16.552	2.400	39.749					
1F 洗面/床の間	11.593	2.400	27.824					
2F 廊下	6.624	2.400	15.898					
2F 階段	4.140	2.400	9.936					
2F 便所	1.656	2.400	3.976					
2F 洗面室	16.292	2.400	39.740					
2F 寝室1	9.937	2.400	23.949					
2F 寝室2	13.249	2.400	31.798					
合計			254.960			160	0.63>0.5	

有効換気計算表

室名	換気設備	開口部最小 サッシサイズ	取ガラスの面積 S	居室容積 V	有効換気量 C=0.2	必要換気量 E=0.2V	換気率 C>E
玄関・倉庫等	AW1	引違い窓 W1650/1200	0.7×2.0×2=2.80	16.562	1.40	0.63	OK
和室	AW2	引違い窓 W1650/1000	0.7×1.8×2=2.52	11.593	1.26	0.58	OK
主寝室	AW3	引違い窓 W1650/1000	0.7×1.8×2=2.52	16.562	1.26	0.63	OK
寝室1	AW4	引違い窓 W1650/1100	0.7×1.0×2=1.40	9.937	0.70	0.50	OK
寝室2	AW4	引違い窓 W1650/1100	0.7×1.0×2=1.40	13.249	0.70	0.66	OK

採光適合確認

室名	換気設備	開口部最小 サッシサイズ	開口部から 室内天井 までの高さ D	開口部から 室内天井 までの高さ H	採光補正係数		取ガラスの面積 S	有効採光量 Γ=A×D	居室容積 V	必要採光量 Γ=0.7V	採光率 Γ>F
					D/H×6-1 (昼光式)	A					
玄関・倉庫等	AW1	引違い窓 W1650/1200	1.650	4.363	2層軒先	0.85	0.7×2.0×2=2.80	2.38	16.562	2.37	OK
					バルコニー	4.36					
和室	AW2	引違い窓 W1650/1000	1.650	4.483	0.80	0.80	0.7×1.8×2=2.52	2.01	11.593	1.66	OK
主寝室	AW3	引違い窓 W1650/1000	1.650	4.675	0.81	3.00	0.7×0.9×2=1.26	3.78	16.562	2.37	OK
寝室1	AW4	引違い窓 W1650/1100	10.848	1.107	0.179	3.00	0.7×1.0×2=1.40	4.20	9.937	1.42	OK
寝室2	AW4	引違い窓 W1650/1100	1.650	1.107	7.08	3.00	0.7×1.0×2=1.40	4.20	13.249	1.82	OK

玄関・倉庫等の取AW1の開口部にはバルコニーがありますので、バルコニーの2層軒先から敷地境界線までの水平距離 (D)の両方について検討を行い、厳しい条件の方が採光補正係数 (A)となります。採光補正係数の最大は、3.0ですので、「D/H×6-1」の値が3.0を超えた場合は、3.0が採光補正係数 (A)となります。